

四、学校ニユース

## レインボータワーは朝から盛況です

去る三月十二日、来賓に柴田勝社会教育委員長さんをお迎えして、総合遊具の完成式を行いました。

前夜来の雨も上がっていましたが、中庭はややぬかるんでいました。そのため、来賓とPTA役員さんと代表の児童だけが現場で、また、全校児童は教室で双方向テレビによる映像で参加しました。

全校児童を代表して、五年生の横山知美さんが、完成の喜びと、PTAのみなさんや工事をして下さった方へ感謝の気持ちを述べました。

この遊具にふさわしい愛称を募集したところ、当時三年生の中山葵さんが考えたレインボータワーに決まりました。きれいに彩られた様子が、まるで西洋のお城か虹を思い出させます。

完成の式から一か月たちましたが、朝から、下校時刻まで大変な盛況が続いています。

きょう、学校へ来てみたら十人もいなかった。でも、まだから外を見たら、レインボータワーではもう二十人くらい遊んでいた。ちょっとしてまた外を見たら、もっと人がたくさんにふえていました。だが、みんな楽しそうに遊んでいるなど思ったから、すぐ外に行ってタワーに上りました。さいしょは、ジャングルジムからのぼっていちばん上に来たので、ちょっとだけこわいなあ、と思った。でも、ジャングルジムからよこのころへつながる橋を通過して、よこの方へ行って、ひもを引っぱってのぼるところから、わざと下へシューと落ちました。

それから、またひもをよいしょよいしょと引っぱってのぼり、ちがうところからおりました。こわいよーと思っただけ、がんばってこそそ下へおりました。またチェーンのところからのぼり、ジャングルジムを通過すべりだいからおりたらチャイムがなりました。

県内出身者の出身郡市調べ

平成2年5月調べ

尾張

三河

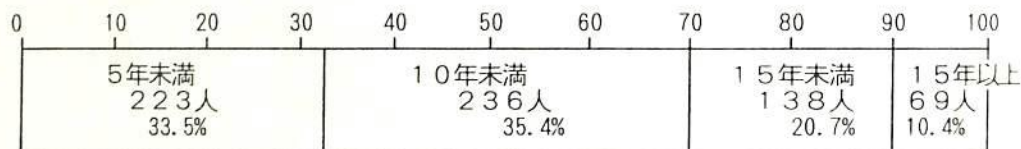
郡市名	父親	母親	合計
名古屋	34	24	58
一宮	2	4	6
瀬戸	3	1	4
半田	1	3	4
春日井	2	1	3
津島	0	1	1
常滑	0	1	1
江南	0	1	1
稲沢	0	1	1
東海	1	0	1
大府	0	1	1
知多	1	3	4
豊明	0	1	1
愛知郡	0	1	1
西春日井	0	2	2
中島郡	1	0	1
海部郡	1	0	1
合計	46	45	91

郡市名	父親	母親	合計
豊橋	16	24	40
豊川	4	2	6
碧南	2	5	7
刈谷	3	6	9
豊田	9	7	16
安城	4	7	11
西尾	9	15	24
蒲郡	12	21	33
新城	2	2	4
高浜	2	3	5
知立	0	5	5
幡豆郡	9	9	18
額田郡	11	24	35
西加茂郡	0	1	1
東加茂郡	13	6	19
北設楽郡	7	6	13
南設楽郡	2	4	6
宝飯郡	5	4	9
渥美郡	1	3	4
合計	111	154	265

県外 552 42.1%	県内 760 57.9%		
	市外 356 27.7%	市内 404 30.8%	
		区外 352 26.8%	区内 52 4.0%

※ %は両親を合わせた1312人に対する割合です。

現在地での居住年数



※ 保護者のうち、長く住んでいる方の居住年数を調べています。  
 ※ 15年以上の内訳 20年未満19人2.9%、25年未満11人1.7%  
 30年未満2人0.3%、30年以上32人4.8%

保護者の出身県調べ

平成2年5月調べ

県名	父親	母親	合計
北海道	6	10	16
青森	4	8	12
岩手	3	6	9
秋田	5	5	10
宮城	1	2	3
山形	1	0	1
新潟	5	6	11
福島	3	2	5
栃木	1	1	2
茨城	3	1	4
群馬	0	3	3
山梨	0	0	0
埼玉	1	1	2
千葉	0	0	0
東京都	11	5	16
神奈川県	0	3	3
長野	9	5	14
静岡県	22	24	46
岐阜	18	22	40
富山	8	2	10
石川	5	3	8
福井	7	6	13
外国	0	1	1

県名	父親	母親	合計
滋賀	5	4	9
三重	19	10	29
奈良	2	0	2
和歌山	2	4	6
大阪	12	9	21
京都	6	7	13
兵庫	2	3	5
鳥取	4	4	8
岡山	6	5	11
広島	14	5	19
島根	5	1	6
山口	4	6	10
香川	3	2	5
徳島	3	4	7
高知	2	4	6
愛媛	4	5	9
大分	9	4	13
宮崎	8	10	18
鹿児島	7	14	21
熊本	15	14	29
福岡	21	13	34
佐賀	4	5	9
長崎	12	20	32
沖縄	0	1	1

地域	父親	母親	合計
九州	76	81	157
中部	69	62	131
近畿	48	37	85
中国	33	21	54
東北	22	29	51
関東	16	14	30
四国	12	15	27
北海道	6	10	16
外国	0	1	1
合計	282	270	552

※ 毎年調査してきました、保護者の出生地と現在地での居住年数の分布がまとまりました。  
 隣県の静岡、岐阜、三重県の他に福岡、長崎、熊本県など九州各県から多くの方が来られています。  
 また、今年は、県内の出身郡市も調べてみました。  
 各県各地の情報をお寄せ下さい。  
 教材化していきたいと思ひます。

今後は、転入生と新1年生を追加して、統計を修正していきます。  
 ご協力ありがとうございました。

## ベルマークは一点が一円

大井 正之

児童会の専門委員会のひとつ赤十字委員会では、五月十五日から三十日までを「ベルマーク週間」として、ベルマークの回収に取り組んでいます。

十二日の朝の会。四年生以上の委員は、各教室へ行って回収を呼び掛け、透明な円筒形の容器を置いてきました。日に日に増えていくマークを外側から見られますから、意識を高めることができます。

十六日の水曜日、六時間目は児童会の委員会の時間。

赤十字委員会では、ベルマークの整理をするということで教室をのぞいてみました。

六年生の大北哲生君が委員長ですが、この日は代表委員会に出席しているので、同じ六年の安田美奈さんが作業の進行を務めています。グループごとに未整理のマークが配られました。すぐに整理番号ごとの仕分作業が始まりました。何十種類ものマークを分類することは大変なことですが、手際よく進んでいきます。四年生の築穂政人君に聞くと、少し考えてから

「マークを集めることが楽しい。」

と答えてくれました。

続いて、稲石誠、横山敬一、三浦久美子の六年生グループに聞くと、

「同種のマークを集める作業が、トランプの神経衰弱に似ているよ。」と言いながらも、

※ 同じ会社でも、商品によっては整理番号が違うのがあるから気を使う。

※ ビニルの袋などは、小さいと丸まってしまつて整理しにくい。

※ 暑い日でも、風が入るとマークが舞つてしまうので窓が開けられない。



などの、苦勞していることも分かりました。

四十五分の活動は、あつと言う間に終つてしまいました。

一枚が五点、十点のように高点のマークがたくさんありましたが、今日の最高点は一枚で四十八点のものがありません。仕分されたマークは、透明な円筒に入れられましたが、みそやカレーなどの調味料、清涼飲料、フィルム、学用品類がたくさん集まっているようです。

六月の活動は、仕分作業と点数計算が中心になりますが、さあ、総計は何点になるでしょうか。昨年度は、この資金で十二組の竹馬を購入しましたが、今年はどうなるか買えるか楽しみです。

### 回収の協力を

ベルマーク運動は、PTA・会社・助成会の三つからなるボランティア運動です。集めたマークは一点・

一円として計算され、学校設備品を購入することができます。加えて、協賛会社から、へき地や特殊学校・開発途上国の子どもたちに援助の手がさしのべられますから、「愛のボランティア運動」といってもよいと思います。

ここで、ご家庭でたくさんマークを集めていただくために、二、三のお願いを書きます。

① 保管のために、台所などに空き缶や空き瓶を置く。

② マークは、数えやすいように大きめに切り取る。

✕ 丸いマークも四角に切つて

✕ 小さなマークは大きく切る（フィルムなどは、開け口のふたをちぎったぐらい）

✕ つながったマークはそのまま

✕ ビニル袋はとじしろを残して（点数計算のとき、ホチキスでとじると数えやすい）

③ 学校へは、紙袋やビニル袋に入れて持たせる。



## 洋画「上地新開地」の寄贈（岐阜県岩村町の加納睦久さんより）

今年度上地学区社教委員会の一日研修会が、岐阜県恵那郡岩村町で行なわれたのは去る六月十七日のことでした。「女城主」逆さはりつけの悲劇の舞台として知られる岩村城の見学が主な研修目的でありました。この日、以前、岩村城下の鉄砲鍛冶でもあったご自宅の説明をして下さったのは加納睦久さんでした。加納さんは、上地の区画整理事業が始まり、小学校の建設工事が開始された頃、すでに若松東の内海家電さんの西に住んでおられた方です。柴田勝社教委員長さんとは、その頃からの知り合いで「上地の方がいらっしゃるなら」ということで、画家としてのお忙しい日課をさいて案内を引き受けて下さいました。

岩村町役場観光課の宮地さんも加わり、昼食を共にさせて頂きました。成瀬総代会長さんや柴田社教委員長さんを初め嶋田校長との会話がはずむ中で、開発前の上地が懐かしく話題にのぼりました。

「上地の変貌には驚きました。」

「全国から集まった方たちで町づくりが進んでいますね。」

「まだまだ、これから発展しますね。」

上地の未来にかける豊かな夢が語られ、一同の要望が「日本美術家連盟会員」としてご活躍中の加納さんの作品に寄せられていきました。そして、できるだけ早い時期の再会を約してお別れしました。

この日の研修会がきっかけとなって、同月二十二日、加納さんご夫妻が来校され洋画二十五号の大作「上地新開地」のご寄贈を受けることになりました。開発前の「オカリヨウ」南一帯が温かなタッチで描かれています。

早速、嶋田校長が月曜朝会で全児童に紹介し、職員玄関右に展示させて頂きました。ぜひご鑑賞下さい。

## 広田川からスッポンがやってきた

梅雨に入ったばかりの六月の初旬。上地学区初代の鈴木勲社教委員長さんから電話がありました。

「珍しいものがあるけど、学校はほしいかね。実は、職場の同僚が男川でスッポンを釣ったんです。よかつたら上地小学校の子たちに差し上げましょうと言っておるのですが……。」

なかよし池に、かめはいますが、スッポンはいません。早速先生たちと相談したところ、「それはありがたい。ぜひ、子どもたちに見せてやろう」ということになりました。

明るる日、鈴木さん宅のお嫁さんが約二キロほどもある大きなスッポンを学校に届けて下さいました。子どもたちへの初公開を期して水槽を準備し始めると、今度は、上地区画整理組合の畔柳文男さんからお電話です。

「広田川で魚つりをしていたら、スッポンが釣れたが、学校の池に入れてくれますか。」

なかよし池には、ようやく水に慣れてきたこいやふながいます。折角のご厚意ですが、魚に危害を与えられてはとの心配から、「子どもたちに見せる」ことを約束して頂戴することになりました。

「広田川といえば砂川の下流。そのまた砂川は、奥山田池が源流。言ってみれば、広田川のスッポンは上地のスッポンということになる。」

こんな理屈をつけて、いよいよ、サンクガーデンにスッポンが納まった水槽を置きました。飼育担当の長坂先生が校内放送のマイクを握り一声。

「学区の方から珍しいかめを頂きました。かめといっても、本当はスッポンです。昔から食いつくと、どうしたって離さないと言われるほど怖がられていますから、絶対に水槽の中に手を入れないで見ましよう。」

梅雨の晴れ間のサンクガーデンは、放課を待ちわびた子どもたちでたちまちあふれてしまいました。

「わっ、すごい見えた見えた。」

「砂の中から顔を出した。」

「カエルみたいな顔だ。」

「かめみたいじゃない顔だ。おもしろい顔。」

初めての対面を果たした四年生の小島君や宿谷君・浅野君たちが驚きを語ります。黒山の上地っ子が、次々と水槽をのぞき込んで、思い思いの感激を胸に教室に戻って行きました。

「さて、このスッポンさんをどうしますか。」

「なかよし池には入れられないし、スッポン料理のフルコースというわけにもいかないし……。」

こんな会話を交わし合っているのを知ってか知らずか、スッポンはいつの間にか底に敷いた川砂の中にもぐってしまいました。

「でも、いい顔してますね。広田川や男川から上地にやってきたスッポンだ。」

「奥山田池に戻したらどうだろう。」

こうして、三日間にわたった上地っ子への初公開が終わりました。

六月十六日（土）の午後、二匹のスッポンは、五年生の小林誠君と長坂先生の案内で、どぼんと心地よい水音を残して奥山田池に消えて行きました。

運動場を一瞬のうちに海のようにした激しい雨や、三十度を越える真夏の太陽を校庭で体験したスッポンが、上地っ子に数々の思い出を残してくれました。

「噛まれたら絶対に取れないとおどかされたけど、鼻のところが豚みたいでとっても可愛いらしかった。」

「雷が落ちても食いついたら離さんと聞いていたけど、象さんみたいな鼻がおかしかった。」

六年生の井口君と花田君が、サンクガーデンの階段に腰かけて、初めて見たスッポンを語りました。

初代社教委員長の鈴木さんや区画整理組合の畔柳さんの温かなお心が、うっとりしい梅雨空にさわやかな「上地の風」を贈って下さいました。ありがとうございました。

おしまいにスッポンの生態にふれた解説を紹介し、奥山田池の堤で真夏の「こうら干し」を見せてくれる日を楽しみに観察を続けたいと思います。

### スッポン (学研図鑑より)

「池や川に住み、底がやわらかな所を好む。魚・かえる・えび・水生昆虫・少量の植物を食べる。四月ごろ冬眠からさめ、六、七月ごろ数回にわたって直径二センチくらいの卵を一度に十〜四十個くらい産む。卵は二か月くらいかかってかえる。」

性質は臆病で、荒く、すぐ噛みつく。手で持つ時は、甲らの後ろのふちを両手でつかむ。肉はうまく食用にされる。」



(教頭 松原暁三)

## ブラジルから学校参観

大井 正之

七月七日、ソニー幸田工場で働くブラジル日系二世のセシリアさんとベルナディッテさんの女性二人が、上地小学校を訪問しました。

二人は、ブラジルの小学校で先生をしておられました。動きながら日本のことを学ぶため、休職して来られたそうです。今回の訪問は、日本の学校教育の現状を知るためのものです。

二人は、さっそく五年一組と六年一組の授業を参観しました。五年一組は社会科の授業で、日本の農業「いちご作り」についての勉強を覚えてもらいました。整然とした授業風景を見て、日本の子供たちの学ぶ姿ににこにこしながらもうなずいておりました。六年一組も同じ社会科の授業で、歴史「家康の一生」を、TPを使って発表しました。活発に発表したり、意見の交換をしたり、自在にTPを操る様子に感心していました。

三時間目。五年一組は音楽室で、六年一組は視聴覚室で歓迎会をしました。ちょうど七夕の日でしたから、「たなばたさま」「きらきら星」の歌を歌ったり、短冊に願い事を書いてササの葉につるしました。

五年生一組では紙芝居、はないちもんめ、ジャンケンゲームなどをしました。セシリアさんの首にレイをかけてあげると最後まで付けていました。六年生の教室では、花田君と寺田さんの司会で、ベルナディッテさんを歓迎した替え歌を歌ったり、お寺のお尚さんなどの歌を歌いながら一緒に遊びました。

たった二時間の短い交流会でしたが、「ブラジルへ行ってみよう」（高野瀬文乃）、「温かい握手の感覚が忘れられない」（寺田恵子）など楽しく、思い出多い一日を過ごすことができました。

セシリアさん ありがとう

五年一組 塚本 晶子

いよいよセシリアさんとの交流が始まる。もう心臓がドキドキしている。

「セシリアさんが喜んでくれるといいな。」

と書いていました。びっくりしました。それは、ジャンケン。ブラジルにはジャンケンはないと思っていたのに、セシリアさんは知っていたのです。とってもうれしかったです。

セシリアさんが一番喜んでしたのは、ランバダおどりをした時だったと思います。とってもおどりが上手で、分かりやすくおどってくれました。

日本語がとっても上手でした。質問のときなど、みんなが分かりやすい言葉に一生懸命直して説明をして下さいました。よく分かりました。

最後の別れがつかったです。カードを渡したら、思い出のキスをしてくれました。一生忘れない時間を過ごしました。



七夕集会で歓迎されるセシリアさん

ベルナデッテさんは、七夕のたんざくに書くところだ

きょうわ とてもたのしい日です。

とお書きになった。私が、一番びっくりしたのは、漢字を書いたことだ。いくら学校の先生でも、日本には、ひらがな、カタカナ、漢字とある。そのうち一番むずかしいのは、漢字だ。

「かんたんな漢字しか書けません。」

とおっしゃったけど、かんたんでもすごい。私は、いっしゅん、

「えっ、漢字が書けるの？」

と思ってしまう。せいぜいひらがなを覚えるだけでたいへんなのに、すごいと思った。それに、ひらがなも上手だった。きちんと私たちの言葉も通じた。たんざくに、『ベルナデッテ』と書いたところもすごかった。カタカナも書けたからだ。これなら、日本で暮してもだいじょうぶだ、と思った。言葉（しやべりかた）も上手だし、字も上手（ひらがな、カタカナ、漢字）。だれにでも言葉が通じる。だから、だいじょうぶだと思う。

ブラジルの教室より、上地小の子どもの方がしっかり勉強しているといわれて、うれしく思いました。

## ナイター気分で2500人が参加

〈第二回上地学区親子夏祭り〉

大井 正之

P.T.A主催による学区親子夏祭りは、去る八月二十五日（土）、上地小学校校庭で開催されました。

正門と南門を結ぶ歩道には、本年度の役員さんの奇贈による赤白のちょうちんが飾られ、祭りの雰囲気盛り上げています。また、校庭中央には紅白の幕が張られました。役員、委員の皆さんが赤色の法被を着て、開始を待っています。

夕陽が西の空へ傾きかけた午後五時。祭りの開幕です。待ちかねていた子供たちが、各コーナーへ散らばっていきました。会場を一回りしました。まず、テントの中では、保健部の人たちがリングドーナツ、おにぎりを売っています。ホットプレートの上では、フランクフルトソーセージが焼かれて、食欲をそそります。隣のテントからは、みたらし団子と草団子のおいが漂ってきます。P.T.A会長さんも法被を着て、呼び込みの声を高くしておられます。文化部が担当ですが、ここではポットブーンも人気を得ています。一人分三十円ですが、早朝から準備をして忙しそうに働いてみえます。ジュース、アイスクリームも飛ぶように売れていきます。ウッドベッカーやミッキーマウスの看板もあって、子供たちの足を止めています。

本部テントの隣りでは、上地三丁目で無農薬野菜の栽培に精魂こめておられる成瀬守さんが、じゃがいも、なす、かぼちゃなど自家製の野菜コーナーで協力をしていただきました。トマトなどはあつという間に売り切れてしまいました。南門の近くでは、上地医療事務所のみなさんが丹精込めて作られた「上地焼き」を廉価で販売し、花を添えていただいています。抹茶茶碗、ミニ水盤などたくさんありましたが、子供でも買える値段ですから売り切れてしまいました。急いで、取り寄せて販売を続けていただきました。

ここはゲームコーナーです。広報部では、ふうせん釣りで子供を集めています。六年四組の奈倉維斗さんは八個、二年四組の浅野麻衣さんは十三個も釣りました。たくさん釣ってももらえるのは二個だけです。紙ひものこよりの堅さによって釣れ



る数に違いがあるようです。文化部は玉当てゲームを担当しています。アンパンマンの胸に玉入れの玉を二個当てると賞品をもらえるのですが、柔らかいのでなかなかうまく当たりません。若松保育園の小田次郎くんが上手に二個当てました。両手に六つもほうびをもらってにこにこ顔でした。

環境部は、輪投げゲームですが、うまくはめると駅名を書いたカードがもらえます。岡崎駅から東京駅まで東海道本線の駅名に自分の名前を入れることができます。井戸田君と海藤君が一、二番をとったようです。次は、保健体育部による空き缶ポ一リングと称して並べた空き缶にサッカーボールを当てて倒すゲームです。ストライク賞をもらった一覽表を見ると、ここは五、六年生に人気があるようです。バターゴルフのコーナーは生活指導部が受け持っていますが、豆ゴルフの行列で待ち時間が必要なようです。

六時半。四基の照明燈に灯が入りました。十分くらいで、カクテル光線が輝きを増して、浴衣姿の女の子を引き立てます。南校舎の東側壁面では、映画が始まりました。上演は漫画で「幽霊屋敷」「泣いた赤おに」「黒潮物語」の三本立てです。丸太ベンチやサンクガーデンに三百人くらいの観客がいます。今夜は風が乾いていますから、涼しさを感じます。

運動場中央では、上地四区の成瀬忠さんの太鼓のお囃しで盆踊りが始まりました。初めのうちは二百人くらいの輪でしたが販売コーナーが次々と売り切れて、役員さんや委員さんが法被のまま輪の中に入って、三重円、四重円と膨らんでいきます。ホームラン音頭や上地音頭に人気があるようです。調子の入った子たちが太鼓に加わって合の手を入れます。

八時半。PTA会長さんが、参加した子供やPTA会員にお礼を述べました。続いて、成瀬司総代会長さんが、「この盛り上りを上地学区創立十周年に結び付けたい。」と、力強く語られて、祭りの幕は降ろされました。

アンケートで予想した人数とほぼ同じ、二千五百人ものお祭りでしたが、交通整理を下させた指導員さん、使用電力に耐える電工ドラムを三つも寄贈してくださった元PTA会長の松田さん、ほか多数の皆さんのご支援があったことを申し添えておきます。

## バスケット サッカー 女子バレーが優勝

### 男子バレーは3位、水泳の加藤恵一君は2位入賞

岡崎市小学校球技大会は去る七月二十一日から、同水泳大会は二十七日、市内各小学校を会場として開かれました。

主戦力として一年間、放課後や土曜日、日曜日にも練習をしてきた成果が、見出しの成果となって表われました。

#### 優優勝は3占差左で

##### 女子バスケット部

三十一校によるトーナメントを順調に勝ち進んだ上地小と大樹寺小が、決勝で対戦。54対51の大接戦で見事に優勝しました。昨年は決勝戦で涙を飲みましたが、雪辱を果たしました。

これに力を得た同チームは、夏休み後半に行なわれた市民バスケット大会でも優勝に輝きました。

#### PK戦で栄冠

##### サッカー部

続の優勝。

予選リーグを順調に勝ち進みましたが、決勝戦で強敵常磐小と対戦。後半

212と同点に追いついてからは終始

優勢に運び、そのままPK合戦。412で優勝の栄冠。二年の間を空けて、

二度目の優勝。

#### 九人制も制覇

##### 女子バレー部

一セットも落とさないまま、決勝戦まで進出しました。決勝の相手は矢作

北小。これも210で制して、三年連

#### 第ニセットはジューズ

##### 男子バレー部

予選リーグを勝ち進み、準決勝まで駒を進めましたが、六ツ美南小と対戦。接戦のまま第三セットまで進み、しかも延長に持ち込みましたが、惜しくも敗退。

#### ソフトは第2戦へ

一回戦は六ツ美中小と対戦。見事打ち勝って二回戦へ進出しましたが、ここで惜敗。

記録は45秒7(50M)

五年平泳ぎ、加藤恵一君の記録です。



全日本バレーボール大会

## 上地小、ゲンキ印、快勝

ライオンカップ第十回記念全日本バレーボール小学生大会は十三日開幕、十六日まで四日間の熱戦をスタートさせた。午前十時から、東京・千駄ヶ谷の東京体育館で行われた開会式では、都道府県大会を勝ち抜いた男女各四十九チームが晴れやかに入場行進、健闘を誓い合った。午後からは、同体育館など都内四会場で、グループ予選計四十八試合が行われ、元氣いっぱいプレーを繰り広げた。

本県代表の男子・上地小(岡崎市)は損屋(鳥取)に、女子・上地小(岡崎市)は長与北小(長崎)にともに勝ち、きょう十四日の決勝トーナメントへ進出した。ヒカビカ新体育館で〇・メイン会場となっている東京体育館は四年に及ぶ改築工事を今年四月に終えたばかり。改築前は、パレーコートが二面しか取れなかったが、新しい体育館



開会式で入場行進する上地小クラブ男女  
は四面取つてなお余裕のあるスペース。フロアはヒカビカで観客席も真新しい。日本一を目指すチビっ子アタッカーには絶好の晴れ舞台。舞台には選手たちは持てる力を存分に発揮していた。

### やるネ、強力サーブ つねに優位に展開

◇男子◇  
上地小 2 (15)15-0 (0) 損屋  
攻撃力に勝る上地小が相手の圧勝した第二セット、上地小は強力サーブで相手守備をかき乱し終始優位に試合を展開、相手を無得点に抑えた。第二セットでもサーブが面白いように決まり、小林淳也がタッチアウトを狙った巧みなスパイクを見せるなど、高さのハンデを感じさせない攻撃で圧

### 連続サーブ ポイント 巧みにトス して強打

◇女子◇  
上地小 2 (15)15-4 (0) 長与北  
上地小は強力なサーブで長与北の守りを崩し、つけ入るすきを身えず完勝した。第一セット4-4から水井美空の連続サーブポイントで波に乗り、セッター後藤純子のうまい下回しから、エース梅田恵、鈴木恵美子らが強打を決めて一気にセットを奪取、第二セットも押し切った。

## 男子 上地小 快調にVへ進撃

### 粘り及ばず 女子は涙

### 女子は涙

◇男子◇  
▽決勝トーナメント一回戦  
上地小 2 (15)13-6 (0) 船橋  
上地小は、安成貴、小林淳也の主力二人のスパイクを軸に、多彩な攻めで第一セット先取、第二セットは前半、相手のブロックに阻まれるなど、いったんはリードを許したが、堅実なレシーブで球をつなぎ、強り勝った。  
▽一回二回戦  
上地小 2 (15)13-0 (0) 大虫

◇女子◇  
▽決勝トーナメント一回戦  
船橋 2 (15)11-3 (15)11-9 上地小  
上地小は第一セット中盤まで船橋の多彩な進攻に悩まされたが、終盤、ブロックで船橋の攻め手を封じ込めた。

### 第三日目のベスト8進出ならず

## 男子あと二歩

### フルセットの大接戦

### 大接戦

「ライオンカップ第十回記念全日本バレーボール小学生大会」は三日目の十五日、東京・千駄ヶ谷の東京体育館で、決勝トーナメント一回戦から準決勝までの熱戦が繰り広げられた。16強入りした男女計三十二チームの精鋭たちは日本一の栄光を目指し、力と技を存分に発揮した。

◇男子◇  
▽決勝トーナメント一回戦  
船橋 2 (15)14-16 (15)12-6 上地小  
追いつ追われつの中、フルセットの大接戦だったが、船橋に惜敗。第一セット、8点リードから、中盤、相手エースの強力スパイクで逆転された上地小は、終盤、持ち前の粘りで再逆転して先取。第三セットでも一時は逆転するファイトを見せたが力尽きた。

上地小は巧みな変化球サーブで相手の守りを崩し、チャンスボールを安成貴らのスパイクに持ち込むパターンで稍突に加勢。バックもしっかりしたレシーブで攻撃態勢づくりに貢献するなどチームワークも抜群で、最後は入来学のブロックで決めた。



上地小、船橋、ブロックに上り上地の橋田(左)、鈴木(右)

# 台風十九号始末記

大井 正之

九月十九日の夕方から二十日未明にかけて、日本列島を縦断しながら三陸沖にぬけていった台風十九号は、昭和三十四年九月二十六日、東海地方を襲った伊勢湾台風のたどったコースと似ていたことから、数日前から、テレビ、ラジオでその情報が伝えられていました。

十九日。朝七時のニュースでは、台風は室戸岬のはるか南方の海上にあるものの、すでに三重県地方には『暴風警報』が出されていました。上地小学校上空はどんよりと曇った上、風もほとんどなく、近県にまで影響があるとは思えないほどです。八時十五分。教室では、いつもの授業が始まりました。

十時。岡崎市教育委員会より、『愛知県地方に暴風警報が発令。安全を確認のうえ児童を下校させるように』とのファックスが入ってきました。二時間目終了のチャイムと同時に、児童を教室に待機させ、職員集合の放送がかかりました。今まで、無風状態でありましたが、急に暗くなって風が荒れはじめました。職員室では、安全に下校させるための打ち合わせが始まりました。一、担任は、担当する通学団を引率すること。二、下校しても保護者のいない児童を掌握し、学校で預かるか、近隣に依頼してから下校させること。三、翌日も『暴風警報発令中』の場合、登校のしかたについて（九月三日付け、便り）児童に説明すること。などを確認し、十一時をめどに下校させました。だんだんと風も強まってきます。学校を出る頃には、小降りであったのに、五分もしないうちに雨足が強くなって、台風の近づきを感じるようになりました。

三、四十分もすると、ずぶぬれになった担任が続々と帰って来ました。体を拭く間も無く、心配な子供が、無事帰宅したかどうかの確認をするために電話を掛けています。

〇時半頃になると、学校に残っていた児童も親の元に引き取られていきました。子供のいなくなった職員室は静かになりました。全職員で、教室の施設、教室備品の点検、外庭側溝の清掃をすますと、夕刻まで残務整理の格好な時間となりました。

警報発令中で、役職者が居残ることになりました。

大相撲秋場所十二日目の熱戦をテレビで観戦しながら、締め切った職員室の蒸し暑さを紛らせました。外はすでに暗くなっていました。校内を一回りして、女の先生に準備してもらった夕ご飯を食べました。五人でテーブルを囲んで雑談にふけると、一昔前の、宿直を思い出してきます。

風雨は、ますます強まってきます。（ああ、明日は図書館指導員の学校訪問がある。この四月から、進んで本を読み、調べ学習などに取り組んできた学級のためにも、先生のためにも、台風は早く去ってほしい。）指導員の先生と電話の連絡を取り合うものの、予想がつかないので、明朝を待つしかありません。

気象情報によると、紀伊半島に上陸。中心気圧九五五ミリバール、最大風速四十メートル、時速四十キロで北東に進み、東海地方には最悪のコースです。東側からの風が強まって来ました。職員室のガラス窓がふくらんで、今にもはせて飛び散ってきそうです。二回ほど停電になりました。いずれも回復は早く、明りは戻ってきました。

廊下の明りを頼りにして、巡視に出ました。ニセアカシアの木は伐枝剪定が終わっていますが、それでも大きく傾いています。体育館前のアメリカハナミズキの木も波を打って揺れ動いています。

南校舎の先端まで行って、ヤギとチャボが同居している「なかよし広場」の小屋を見ると、姿がありません。強烈な東風によって柵の外まで飛ばされてしまっているのです。この四月から本校に仲間入りした屋久島ヤギやチャボは無事だろうか。職員室にとって返し、雨合羽に身を固めて小屋までたどり着きました。立っていることもできないほどの横なぐりの雨が叩きつけてきます。柵の中を見てもヤギはいません。小屋が飛んで、隙間ができたところから出てしまっているようです。辺りを探すと、二匹のヤギがニセアカシアの葉っぱを食べています。こんなに吹き荒れているのに平然としているのです。（よかった。このまま明朝までこのままにしておこうか。）とも思いましたが、万が一、校外へ出てしまったり、けがでもしてしまったり大変。相談の結果、廊下へ避難させることになりました。二本の紐を用意して再び戻ると、二匹のヤギは倒れてしまった小屋で風をよけています。メスの「花子」をうまく捕らえると、抱いたまま廊下へ来てつなぎ止めました。オスの「太郎」に手を

掛けようとする、いつもは体を擦り寄せてくるのに、「花子」の連れて行かれた姿を見ているのか、逃げ出してしまいました。しばらくは、鬼ごっこのような追いかけてこでしたが、ついに中庭まで遠ざかると一気に運動場の方へ行って、視界から消えてしまいました。(やはり、二匹とも外に置いた方がよかったのか。)

しばらくの間校舎の壁に身を寄せてから、なかよし広場へ戻ると、「太郎」が餌を食べています。容赦なく風は吹き続きます。呼び掛けながら近付くと、体を返して逃げようします。そのとき、切り取ったニセアカシアの枝の又に足が掛かって、動けなくなりました。このとき、と首輪に手を掛けると急に素直になりました。そして、二匹のヤギは廊下で夜を過ごすことになりました。

十二時頃に三度目の停電。一時ごろ風向きが変わったので、仮眠することにしました。

二十日。四時半。風はすっかり治まっています。空がかすかに明るくなったので、倒れた小屋の様子を確かめようとなかなかよし広場へ行くと、チャボが一羽、二羽、三羽・・・九羽と餌をついばんでいます。十羽目は、なんと一回転した小屋の中の箱で卵を温めているのです。チャボの本能なのか、愛情なのか。いずれにしても脱帽。ヤギを元へ戻しました。

『暴風警報解除』。早起きした近くに住む三年生の子二人が、心配して職員室をのぞきました。早出をした先生と手分けをして、学区を自動車で一巡しました。街路樹や看板などが倒れているものの、児童の登校には支障がありません。(一部、地下道に五センチほどの冠水があったため、「上の信号を渡って登校せよ」の張紙をしました。)

授業は平常どおり始めるものの、停電という悪条件の中で、図書館指導員訪問による三人の研究授業を行ないました。新兵器の教材提示器も使えません。急ぎよ、代案で実施。読み聞かせ、図鑑調べ、隠し絵探しなど、授業者だけでなく、参観するものにも収穫の多い授業でした。

倒れたり、傾いたりした樹木の復元には一週間ほどかかりました。あの暴風や小屋の転倒にも絶え抜いたチャボの雛が四匹もかえって、二匹のヤギと十四匹のチャボは、なかよし広場で元気に子供たちと遊んでいます。

## 忘れられない十月三十日

守山 妙子

「先生、実は、今日の昼、裕司が息をひきとりました。今まで、お世話になりました。ありがとうございます。」  
「えっ、どういうことですか？」

一年前の十月三十日の夜、自宅で、受話器を通して聞こえてくる小田裕司君のお母さんの声。信じられなくて何度も聞き返す私でした。

今年も、おかさぎっ子展の作品の仕上げをしながら、「もう、裕司君の命日なんだ・・・。」と、宇宙船に銀のスプレーをかけ、作品づくりに励んでいた三年生の裕司君の姿が思い出されました。

十月三十日、裕司君のお墓に手を合わせて、「三年一組の仲間は、五年生になっても、裕司君の分まで頑張っているよ。見守っていてね。」と、お参りしてきました。

翌日のことでした。

「裕司君の命日だね。」と元三年一組の子が、ひそひそ話をしていたというのを聞きました。そして、授業後、教室で仕事をしている私のところへ、

「先生、裕司君のお墓、どこにあるの？」

と、息を切らして四人の子が飛び込んできました。

堂園君、吉村君、浅井君、榎原君でした。花とケーキの包みを持っていました。

もう、暗くなりかけていましたが、場所を聞くとすぐに背中を向けて教室を出ていきました。後ろ姿を見送りながら、「子供も、忘れずに思い出してくれたんだ。」  
と、感心するとともに、うれしくなりました。

お墓参りをすませた子が、こんな気持ちを書いてくれました。

今すぐ会いたい

堂園 秀樹

二年前のことは、頭の中にしっかりと残っている。忘れることはできない。

まだ、先がずっとあるのに。

お父さん、お母さんがよく言う。

「人間は、いつ死んでもおかしくない。」

「人間は、いつかぜつたいに死ぬ。」

と。

ぼくだって分からない。

十月三十日。

あんなこと、信じられなかった。

信じたくなかった。

ぼくの心の中で生きているんだ。

トラックとねこの好きな裕司君のすがたが。

裕司君のおはかまいり

吉村 浩一

赤十字委員会の仕事で地下道の掃除をしていたら、浅井君が近づいてきて

「今日は、裕司君の命日だからおまいりに行くか。」

とさそってくれました。

急いで家に帰ってから、みんなでドミールに行つて、

お花とお菓子を買ってきました。

円光山寂靜寺へ行つて、すみからすみまでさがした

けど、裕司君のおはかは見つからなかったので、守山

先生に聞くため学校へ行きました。

百丈山三善寺でした。

手を合わせて、裕司君に話しかけていると、裕司君

のわらい声が聞こえてくるような気がして、うれしく

なりました。が、すぐに悲しくなってしまうました。

「小田裕司君の死」という信じられないとてもつらいことが起きた十月三十日は、子供たちにとっても私にとっても忘れられない日です。  
(※ お母さんは、今でも、毎月きれいな花を学校に届けてくださいます。)

## 六十五冊の本をプレゼント

学校だより十一月号の「教室の窓」で紹介した、一年生児童への『本の読み聞かせ』授業の一環として、読書感想文を応募したところ、このほど、愛知県書店組合から六十五冊もの本を寄贈していただきました。

これは、愛知県青少年育成県民会議が主催している「第二十九回青少年によい本をすすめる運動」に對して、本校の活動が認められたものです。

本は、一年生の松永友理・井坂美穂・西田沙緒里

・梅村佳代の皆さんが代表していただき、佐藤真美

さんが学校を代表してお礼の言葉を述べました。

いただいた本は、図書館に展示して全校の児童に貸出されます。

おれいことは

わたしたち一年生は、本がだいすきです。いつも、四かいのとしよかんへ本をかりにいきます。

あおいごうががっこうへくると、本がかりがいそいで本をかりにいえます。きょうしつの本だなに、よみたい本がならぶと、わたしたちはきょうそうでよみます。

わたしは、先生がよんでくれた『ぼくのわができたよ』の本が、だいすきです。

すてきなわができてくるところがよかったです、わたしも、こんなひろいにわがあつて、じぶんのすきななをうえたいなあとおもつて、かんそうをかきました。

そして、きょう、本をいただけるので、とてもうれいす。本をたいせつによみたいとおもいます。

ありがとうございます。

十二月七日

上地小学校 一年生 さとう まみ

# ヤクシマヤギ飼育日誌(抄)

長坂 信一

## ●四月十六日(月) やぎと対面

ヤクシマヤギを受け取りに行き、上地小にやって来る二頭のやぎに  
対面しました。係の方が、あらかじめ用意してあった二頭を箱に入れ  
て下さいました。抱きかかえられたやぎは、まるで人間の赤ちゃんの  
ように鳴きます。鳴き声がメーメーとばかりに思っていた私には大い  
なる驚きでした。

・オス平成二年一月 十日生まれ 体重一・七キロ

・メス平成二年一月十三日生まれ 体重一・四キロ

やぎは、牛と同様のはんすう動物で、一度飲み込んだ食物を、また  
口にもどし、よくかんでからまた飲み込むので、えさをやり過ぎては  
いけないそうです。

十一時十五分、学校へ到着。

校長先生にも牧場へ来ていただき、加藤事務主査さんと箱をさげて  
二頭を出そうとしました。ところが、やぎは恐れのためか、なかなか  
箱から出ようとしません。抱いて出してやると、ちょっと辺りを見た



かんげいします。子やぎさん

かと思ったら、フェンスのわずかな隙間から外へ出てしまいました。

驚いたわたしたちは、焼却場の後ろへ逃げたやぎを、必死になって捕まえました。よかった、よかった。小屋へ戻ってほっ  
と一息。急いで隙間をふさぎました。しばらくすると、やぎが大分落ち着いたようなので、小屋の扉を開けて外へ出してやり  
ました。

## ●同月同日(月) やぎが逃げ出した

ところが、何と・・・オスがわたしたちの足下をすりぬけて、柵に足をかけたかな、と思ったとたん、軽々と柵を越えて  
しまいました。これは一大事とばかり、松原先生を先頭に十数人の子たちとやぎを追っていきました。

追えども追えども生後三か月とは思えない足の速さでどんどん逃げていきます。あれあれと思っている間に、南門から大谷  
公園の方へ走って逃げます。新しく、しかも慣れない環境では、弱い動物は逃げるのは当たり前前である。

このままではだめだ。

「おおい、追いかけてやあいかんぞ。大きく向こう側から回り込め。追えば逃げるだけだぞ。」

大声で指示を出す。それに応えてくれたのが、六年生の鈴木恵美子さんです。向こうの方からこちらへ、やぎを追って来て  
くれました。みんなで取り囲むようにしてやっと取り押えました。

## ●四月十七日(火) 「子やぎの歓迎会」

三時間目。ヤクシマヤギの歓迎会を開きました。一、二年生全員と三年生以上の飼育係、PTA会長さん、役員さん、社教  
委員長さん、総代さんら多数の方々に参加していただきました。

春らしい青空。新しい牧場の周りには、白、うす紫、黄、赤いろと  
りどりのパンジーやデイジー、そして子やぎを歓迎するアーチ。

「今から、子やぎを歓迎する会を始めます。」  
と、五年生の鈴木由香里さんの声。

松田幸久君、田中潮君、小森八千恵さん、中嶋ちひろさんの飼育係  
四人は、二匹の子やぎを抱いて歩き始めました。

まるで人間の赤ちゃんかと思えるような声で、心配そうに鳴き始め  
ました。

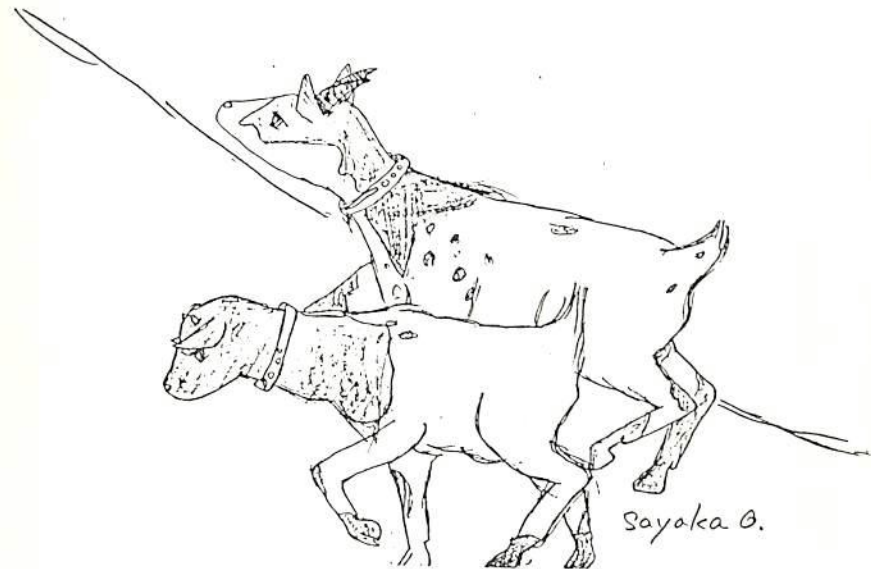
首をすくめるやぎ。そっと手を出し、さわろうかどうしようか迷う  
一年生。やぎの頭をなでて、

「うわあ、かわいい。」

と言いながら、隣の子に合つちを求めぬる子ら。

牧場のアーチの前で、校長先生が、

「この二頭のやぎは生まれてからやっと三か月になったばかりで、大  
人になってもあまり大きくなりません。ヤクシマヤギといって、九  
州の屋久島にいても珍しいやぎです。かわいいからといって、  
えさをやり過ぎないで、大切に育てて下さい。」  
と話しました。



続いて、四年三組の磯村綾香さんが『喜びのことは』を述べました。

ようこそ、子やぎさん。四月になってから、わたしは、子やぎが来るのを今か今かと待っていました。そ  
の子やぎが今日来たのでうれしいです。うさぎみたいでかわいくてしかたがありません。この二匹の子やぎ  
が来る前は、ピーチというやぎがいました。わたしは、ピーチにスカートをちぎられそうになったり、かみ  
の毛を食べられそうになったことがあります。そんなピーチが行ってしまっさびしかったけど、今日から  
また、ふれあい牧場がにぎやかくなり、楽しみも増えました。わたしたちは、これから、この二匹の子やぎ  
もやさしくして、いつまでもかわいがってあげたいと思います。

子やぎは、生まれてから三か月たったところだと、先生に聞きました。今は、さびしくてお母さんのとこ  
ろへ帰りたいと思っているでしょう。上地小学校に早くなれて、いっしょに遊べたらいいなあと思います。

はじめは、びくびくしていた子やぎたちも、今では、えさをやりに入り口に近づくと、体を寄せてきます。学校帰りの子た  
ちが、今日も小屋をのぞいていきます。

〈二年三組の子の感想〉

・まえのピーチみたいにかわいかったよ。さわってみたらふわふわで、あったかかったよ。やぎさん、早く  
大きくなって、いっしょにあそぼうね。

(内田みわ子)

・あたらしく子やぎが来たとき、うれしくてうれしくてたまりませんでした。子やぎにさわったとき、ふわ  
ふわしてとてもいい気持ちでした。わたしは小やぎがしゃべるといいと思いました。

(さきべみか)

・きょう、かわいいやぎを見に行きました。一月に生まれたって、ながさか先生からききました。おすはぜんぜん近づいてきません。めすは元気でした。ぼくは、なでなでしました。

(宇井こうりき)

●四月二十日(金) 慣れてきたたぞ

二頭のやぎは、えさを与えようとする、牧場の入り口まで寄ってくるようになりました。やっと上地小に慣れてきたなという感じ。日を追って人間に対するおそれが薄れてきているようですね。

夕方、えさをやろうと、手にえさを乗せて食べるに任せていたら、左手中指を強くかまれてしまいました。やぎの奥歯はなかなか鋭い。道理で、木の幹でも平気で食べるわけだ。

●四月二十三日(月) 名前前は「太郎と花子」

前々日、三年生以上の子に呼びかけて、飼育係を募集しました。三年二十名、四年二十八名、五年二十三名、六年十名で合計八十一名。班分けは最上級生の六年に任せました。

先週の一週間、名前を募集しました。六百人も子供たちが応募してくれました。その中から、オスは「太郎」、メスは「花子」と呼ぶことになりました。ほかに、ハッピー、リトル、ロッキー、シリウス・リンリン、ロロ・ミニなど。

●四月二十七日(金) 体重は何?

飼育係の子が太郎と花子を連れて保健室へ行く。花子が先に進むと太郎が続く。花子が鳴くと太郎が鳴く。いつもこのパタ

ーン。花子が育ってきた様子を知らない子供たちは、

「太郎って、いつもびくびくしてこわがり屋だね。いくじがないなあ。」

っていう。確かにそんなふうに見えます。

やぎを抱いて体重計に乗りました。

太郎・・・八・五キロ

花子・・・五・〇キロ

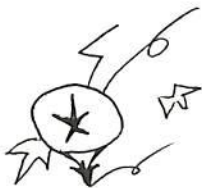
誕生日が三日しか違わないのに体重が三・五キロも違う。なぜだろう。オスとメスの違いだろうか。実は、花子を産んだ母親は、間もなく死んでしまったそうです。花子は人工乳で育ち、太郎は母乳で育ちました。そんなことが理由でしょうか。太郎がなんとなくびくびくしているように見えるのも、本能だと考えられます。花子は人間に慣れていたので。

●五月六日(日) 下痢

昨日から、太郎と花子の元気があまりない。チャボのえさを見ながら困ったことを発見しました。太郎と花子がチャボのえさ(エグマッシュ)を食べています。下痢の原因は、穀物を食べたためでしょうか。下痢止めの薬はないだろうか。幸い、あまりひどくはなさそうなので、自然に治ることを祈りました。やぎを飼っている人に聞くと、下痢ぎみのときは、カシの葉のようなタンニン酸の多い木の葉を食べさせるとよいそうです。

●五月十一日(金) 外へ出たい太郎と花子

校長室で朝の打ち合わせをしているとき、柴田先生の心配そうな声、





「あの、やぎが出ていますが、だいじょうぶですか。」

「うん、このごろ小屋から出してるよ。」

「でも、牧場の外です。いいんですか。」

校長室から牧場へとかけ出しました。最近の様子から、学校の外へにげだすことはない、信じてはいるものの、もしもキョウチクトウを食べては一大事です。さいわい雑草を食べていたが、何とかセーフ。

どのようにして出たのだろう。原因を探してみると、小屋の入り口のロックのすき間から出たものと分かりました。

夕方、牧場へ確認に行くと、なんとまあこれはこれは。いつの間にか、太郎と花子とチャボのひなが仲良くしています。太郎と花子の背中にひなが三羽も四羽も乗っているではないか。しかも気持ちよさそうに。

近くから来ていた母子の三人づれが、ちょうど小屋をのぞき、

「ほら、見なさいよ。かわいいでしょう。」

「どこ、見えないよう。」

と言って、三才くらいの男の子が背のびをして、一生懸命にのぞきこんでいます。

私にはとても想像できない光景でした。ふれあい牧場は非常に柔らかくて、すてきな雰囲気です。

### ●五月十四日(月) モデルになったやぎ

今日は、絵をかく会。一年生はチャボを、二年生はヤクシマヤギをモデルに、運動場のど真ん中。予想できたことだが、やぎは急になれないところへ連れ出されて、異常におびえています。

学年主任の青木先生の話が終わると、やぎの近くによってきて、えさをこわごわやる子、そっと頭をなでてやる子など、子

供なりの接し方をしています。

その後、茶色の色画用紙を配ってもらった子供たちは、クレパスで形をかき始めました。途中から雨になってしまいましたが、やぎは何とかモデルの大役を果たしてくれました。

### ●五月二十二日(火) 散歩

角の長さについて報告がありました。

「太郎は約三、五センチ。花子は約一センチ。」

夕方、班長の辰巳さんたちで、太郎と花子の散歩に出ました。

「やだあ。太郎ったら、急に走るんだもの。」

「すぐに、草のところへ言ってしまうし、食べた草を散らかしてばかりだ。」

### ●五月二十三日(水) 牧場だより

北校舎二階の掲示板に、「ふれあい牧場だより」のコーナーを作り、当番表とやぎノートをはっておく。さっそく一年生の子がのぞきに来ました。

昼の放課に、やぎの散歩をさせる。昨日よりはスムーズに動いてい



そろって散歩をする太郎と花子

ます。しかし、当番の思うようにはなかなか歩いてくれません。

夕方、子供たちがいなくなるとよくなきます。学校の騒がしさになれてきて、静かになるとさびしくなるのでしょうか。

### ●六月 一日(金) やぎのおおれに

やぎが生まれた牧場へ、様子を報告に出かけました。

「こんにちは、二頭のやぎは元気です。」

「よくいらつしやいました。そうですか、それはよかったですね。」

やぎが逃げ出して困ったことなどを報告すると、動物に接してみると人間も知恵を得ること、やぎがいけないことをしたら、すぐその場でしかってやればよいこと、愛情をもって世話をすれば、きっと心が通じること、フィリアの注射はもうやったほうがよいなど、親切に話して下さいました。

### ●六月 九日(土) 雨にぬれるやぎ

東海地方梅雨入り。台風なみのすごい風と雨で、ニセアカシアの木が二つに折れてしまいました。『ふれあい牧場』にも、横なぐりの雨が、容赦なく降りつけます。

六年生の村上君、小林君が、雨にぬれるやぎを心配してやって来ました。

「先生、やぎがぬれないように、板をはって下さい。」

「でも、これからは暑くてしょうがないよ。」

「ブレハブみたいな小屋はできんかな？」

いろいろなアイデアが浮かぶが、なかなか実現しそうもない。でも、動物を心配する心が素晴らしい。

### ●六月十八日(月) フィリアア予防

やぎがフィリアにかかると、まず助からない。やぎや犬の病気フィリアについて、五年生の辰巳景子さんが調べてくれました。フィリアの成虫のオスは十二〜十八センチ、メスは二十五〜三十センチにもなる。そんな大きな虫が、体の中で成長していくと、苦しいだろうな。病気になりたての頃は、はっきりした様子が分からない。だんだん毛の色つやが悪くなり、何となく元気がなくなる。

続いて、朝夕気温の低いときや、運動の後にせきをする。そして、えさをよく食べているのにやせてくる。急に呼吸困難になり、心臓まひで倒れたり、トマトのような色、おしっこをするようになる。最後には、死んでしまう。

四時ころ、南動物病院の院長先生が見えて、約束のフィリアア予防注射をして下さいました。

「まあ、これが花子ね。こちらが太郎ね。」

先生はやぎに対してとてもやさしく、まるで今までずっと世話をしているようでした。体温は、二頭とも、三十九・八度。われわれ人間と比べると三度ほど高い。そして、体重をはかってみると太郎九キロ、花子六キロでした。この十日ほどで、約一キロ増えている。いい調子だ。いよいよ注射。まず花子から。暴れてはいけけないので、抱きかかえて動かないようにして注射する。針をさした瞬間、花子は急になきだして暴れた。えいっ、がまんせよとばかりに、こちらの手にも力が入る。この間ほんの数秒。続いて太郎の番だ。太郎は花子よりかなり力が強いので、ちょっと気が引けたが、ひるんではいけない。気をとり直して太郎を抱く。体をぐっと抱き寄せ、前足をおって左手でつかむ。はい注射。ところが、意外なことに、太郎はあまり暴れない。ああ、よかった。

「ヤクシマヤギをこんなに近くで見れてうれしい。わたしも飼ってみたいわ。」  
「院長先生はほんとうに動物が好きですね。これからもよろしくお願いします。」

●六月十九日(火) ほんとうの「ふれあい牧場」

二時間目、六年生の卒業写真を、ふれあい牧場で撮りました。六年四組には飼育係がたくさんいるので、チャボややぎといっしょにとるようになったそうです。だれがチャボをだいて写したのかな。太郎と花子をカメラのほうにむけて、写すのはむずかしいぞ。卒業アルバムの一ページにのるんだから、やぎたちは幸せです。三時間目は、三年二組が写生に来ました。チャボの中には一時間中ずましているやつがいる。大勢の子が来てくれたので、ちょっと気取っていたのかな。

しばらくやぎを見ていると、金網に体を持たせかけて歩いている。テレビで、ゾウなどがどろ遊びをしている姿を見たことがあったが、やぎも同じ理由で虫などをこすって落としているのだ。みんなが、やぎやチャボとふれあいを深めてくれて、ほんとうの「ふれあい牧場」となってきました。



花子がえさをねだるのをいっぱいばして

●七月十一日(水) テレビで牧場を紹介

放送委員会の子たちがビデオカメラを持って、牧場にやってきました。太郎と花子よ、チャボたちよ。ビデオに写って

んなに見てもらうんだよ。うまく写してもらえよ。放送委員が交代でカメラの前に出て、インタビューしました。

委員・・・「先生、大変だったこと何ですか？」

先生・・・「はじめてやぎが来た時に太郎がだっそうしたこと。それから、みんながえさをやりすぎて、太郎が食べすぎてしま  
い、げりを起こしてしまったこと。」

委員・・・「はじめてやぎが来た時に思ったことは？」

先生・・・「ピーチは体重が六十キロもあった。だから、ピーチと比べて小さかったので、とてもかわいいと感じた。」

委員・・・「牧場で、夜はどうしているんですか？」

先生・・・「やぎは必ず小屋の中だよ。チャボは小屋に入ったり屋根の上で寝たりしている。それからきのうの朝、かわいいチャボのひなが生まれたよ。」

色の白いかわいいひなもビデオに写してもらいました。そして池では、きのうから話題になっている人面魚も。次の日から、『人面魚、人面魚』の声が「なかよし池」の回りにひびく。「ふれあい牧場」も「なかよし池」も話題がたくさんあってうれしい。

●七月二十一日(土) 夏休みの太郎と花子

夏休み特別当番の開始。当番は忘れずに。

太郎と花子を小屋の外に出す。首にロープをつけなくてももうだいじょうぶ。やぎが外へ出て、真っ先にねらうのは、チャボのえさです。以前にいたピーチも、トウモロコシなどの、穀類が大好きです。穀類は腹の中にガスがたまって、体によくない。だから、やぎがチャボのえさを食べそうになると、しかってやることにしています。

●八月一日(水) やぎのつもの

「太郎がこのごろハリケンミキサーをするよ。」  
ハリケンミキサーとは、頭を下げてつかかってくることです。  
以前から子どもたちがつけていた名前です。  
そこで、角の長さを計ってみました。

・太郎・・・七センチ  
・花子・・・二センチ

太郎のつものは、ずいぶんりっぱになってきました。直径が三センチ以上もある。いかにもオスらしく、堂々とした印象を受けます。

●九月 八日(土) やぎも草取り作業

お父さんお母さんによる、校庭および土手の除草作業が行われました。これには太郎と花子も一役かってました。牧場のまわりの草をたくさん食べたのです。

作業にみえた方は、知らない間にすぐそばに太郎や花子が来ているのでびっくりしてみました。太郎たちは約一時間、えさを食べながら、牧場の周りを散歩していたわけです。そのくらい人に慣れてきたのでしよう。

●九月十九日(水) 雨ニモマケズ

### 風ニモマケズ

十時半ごろ、台風十九号による暴風警報が出ました。

十一時、全校児童はいっせいに下校しました。夕方からは、雨と風がますます強くなって、文字どおりの暴風雨。

深夜十一時ごろ、やぎ小屋がついに横だおしになる。ぼくたちが、持ち上げようと思っても、びくともしない重い小屋がかんたんに横倒しになるなんて、自然の力はすごい。

異常に気づいた教頭先生と大井先生が、風と大雨の中、びしょぬれになってやぎとチャボの世話をして下さった。チャボはグラランドの方まで逃げ出したが、全部無事でした。やぎは、こわれたさくから外へ出て、あの暴風雨の中でも草を食べていたそうだ。さすがに野生に近い動物なんだなど、感心させられた。

●十月 三日(水) 新しい当番が決まる

先週申し込んでくれた子で、新しく当番を決めました。人数を増やして一週間に一度は当番をやるようにしました。「ふれあい牧場」は、放課になると、係の子が集まって大にぎわい。



草取り?を手つだう太郎と花子



散歩するやくしまやぎ

「先生、太郎の腹が大きいよ。」

ここしばらくおなか異常に大きい。太郎が成長したためとは思えません。夜になってから小屋をのぞくと、ぐったりしていて、とてもえらそうに息をしています。おなかにガスがたまっているにちがいない。特にご飯やパンは要注意。

●十月二十日(土) やぎの毛はゴワゴワ

昨日も今日も、うらかなくない天気。「ふれあい牧場」は何事もなかったように、一日一日が過ぎていきます。太郎や花子に変わりはないかな？少し体重が増えたようです。手でさわってみると、太郎と花子の毛がごわごわしてきたことが分かります。なぜだろう？冬が近づいたからか、それともおとなになってきたからなのか。

●十月二十七日(土) ミノヒキチャボが

なかま入り

福岡町の大河内さんから、ミノヒキチャボという、ちょっと珍しいチャボを、ひとつがいただきました。

学校に着いて放してやる。ほかのチャボとけんかをするのかな？と思いましたが、予想はまったくはずれてすぐに歓迎されたようです。今までの経験から考えると不思議でたまらない。安心して、職員室で仕事をしていると、

「先生たいへんだ。新しいチャボが逃げちゃったよ。」

「何！それどこへ行ったのか？」

「外の通学路のほうへ……。」

なんと、これではヤクシマヤギの時と同じではないか。

●十一月 五日(月) チャボのひながやられた

残念だけど、今までじゅうんちように育ってきたひなが三羽、今朝、小屋の外で殺されていました。たぶん、ときどき現われる犬だろう。

昨日の夕方五時、牧場に来たときには、まだ元気にビヨビヨと鳴いていたのに……

二年生の青木先生も、牧場のマドンナが、柵の上をいつまでも歩いて、ひなを探している様子を見て、一日中、気になっていたそうです。

夜になって、確かめに行くと、やっぱり、しょんぼりしていました。

「力を落とすなよ。起こってしまったことは仕方がないんだよ。」

「……………」

無言で応えるマドンナ。涙こそ見せないがさびしそうな顔。

親子のつながりは、人間といっしょなんだなあ。

ミノヒキチャボをありがとうございました  
チャボをいただいてから、学校へもどると、私たちはすぐちゃぼを放してあげました。すると、ほかのちゃぼのところへ行ってしまうに仲良くしてくれました。でもやっぱりまだ慣れないようで二羽で歩いているのが多いようです。早くこの学校になれてほしいと思います。

ちゃぼが来てから上地小学校の「ふれあい牧場」

の様子が変わりました。私たちも「ふれあい牧場」へ行って、ちゃぼがちゃんと思ってる、見に行くことがあります。ときおり追いかけてりますが、頭が良く足が早いので、全然追いつきません。私はくたびれてしまいました。

五年 成瀬 顕代

●十一月二十六日(月) 太郎と花子の足に異常が

今日の朝、雨が降っていたので、午前中はやぎを外へ出さなかった。当番の子があわてて呼びにきました。

「花子がおかしい。」

「歩き方が、変だよ。びっこをひいてるもん。」

牧場に行ってみると、たしかにおかしい。太郎は右前足、花子は左前足をかばうようにして歩いている。いつも元気に走っているやぎたちを見ているので、とても心配です。原因がよく分からないので、そっとしておいて、明日まで様子を見るように話しておきました。

心配だったので、次の日の朝、牧場を見に行くと、あれっ！足の調子が良さそうだ。太郎はすっかり治っていましたが、花子はまだちょっとおかしい。このまま順調に治ってくればいいのに。

●十一月三十日(金) 大形台風二一十八号

「台風が上陸するかもしれない。」とテレビのニュース。

「いや、この台風はだいじょうぶ。来ても大したことはない。こんなに涼しくなったし、上陸すればすぐに力が衰えるさ。」と予想しましたが、とんでもない結果を招くとは想像できなかった。

十時半すぎ、暴風雨警報発令。この時は雨もほとんど降っておらず、給食を早めに食べて全児童は下校しました。午後になって、風が強くなって来ました。夜七時を過ぎたころから、体育館の屋根が飛びそうなくらい強い風が吹き荒れました。

八時になって、何となく胸騒ぎがするので、「ふれあい牧場」をのぞいてみました。南校舎を出たとたん、小屋がさかさ

に倒れている光景が目につりました。

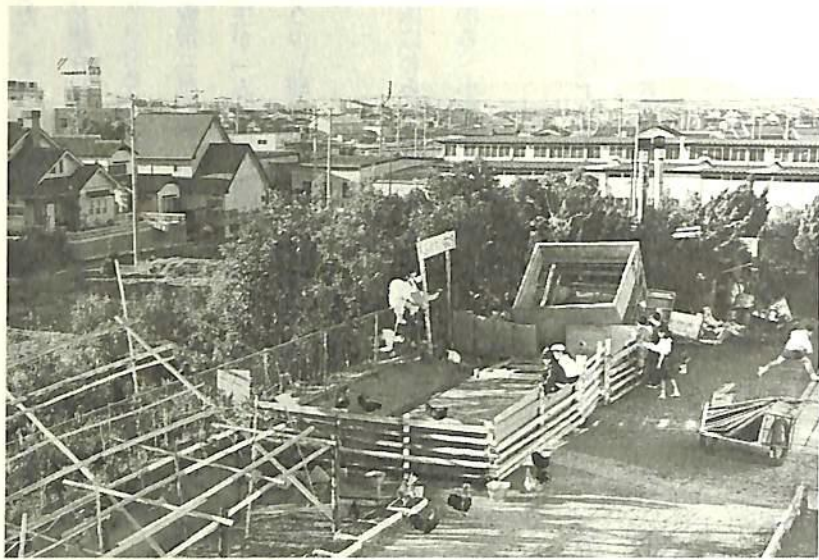
自然はほんとうにすごい。想像以上です。その時、チャボはほとんどが一輪車置き場に避難していました。太郎と花子は牧場の一番東のさくに、体を寄せて風をさけていました。今から小屋を起すわけにもいかず、動物たちの自然に対する生命力や抵抗力に期待して、明日の朝を待つことにしました。

●十二月一日(土) あわれ、やぎとチャボ

台風が去って、空は青い。倒れた小屋を先生方に起こしてもらい、一応、形は整いました。

しかし「ふれあい牧場」はひさんな状態でした。チャボのひなは台風で勝てずに二羽とも死んでしまいました。今まで温めていた卵も割れてしまい、全部が死んでしまいました。その数九個。チャボがあまりふえても困る、と心の中で思ってみるが、命をなくした生き物を見るのは、いやなものです。

太郎はさすがに体力があって元気ですが、花子は、また、急に調子が悪くなってしまいました。足の骨が折れているかもしれないと思ひ、診察してもらいました。まず、驚いたことは花子の



28号台風で転んでしまったヤギ小屋

体重でした。十日ほど前には九キログラムあった体重が、七キログラムまでへってしまいました。

次に、やぎを歩かせてみて「足の様子はけがではなくて、栄養のかたよりなどではないでしょうか。」と言われました。そして、人間の治療と同じようにやさしくていいねいに、見て下さいました。そして、「岐阜大学では実験用にやぎをたくさん飼っているのです、くわしく分かりますよ。先生も一緒にぜひどうぞ。」と紹介していただきました。

### ●十二月 二日(日) ありがとうございます、やぎの診察

冷たい風の吹く、日曜日の朝九時、やぎの様子を心配して、院長先生が「ふれあい牧場」を訪ねて下さいました。花子に抗生物質と栄養の注射をしたあと、小動物は寒さに弱いので、小屋をもう少し暖かくするように教えて下さいました。どうもありがとうございました。

なるほど、小動物は寒さに弱いのか。まず六年生の村上君が小屋の床にわらを敷きました。次に、北風を防ぐために北側に板を張りました。これで、少しは小屋の中が暖かくなるだろう。それから、小屋の床がじめじめしているので、たて一メートル、横九十センチメートルのすのこを作って、敷いてやりました。

えさを持っていくと、太郎は入り口のとびらに、飛びついてきますが、花子はすのこの上で横になったままです。えさを見せると近づいてくるが、少し歩いては前足からくずれないように倒れてしまいます。飼育当番の子たちがみんな心配しています。早く元気を取りもどしてほしい。

### ●十二月 五日(水) 花子の原因を考える

今日はいぶ暖かい。三年生が「ふれあい牧場」の隣りで「やきいもパーティ」をやっています。そのせいか花子の気持ち

もなごんで、足の調子が少しよくなってきているような気がするのですがちょっとうれしい。さて、足の原因を考えてみると、

- ・ 台風のショックで体調をくずした。
- ・ 小屋が倒れたりして、足を強くぶった。
- ・ 太郎がつので強くついた。
- ・ 散歩の時、網を無理に引っ張って、首か背中がいたい。
- ・ 食事(栄養)のかたより

などがありそうだ。これからは、十分気をつけよう。

### ●十二月 六日(木) 岐阜大学へ

十一時半岡崎発、高速道路が渋滞で、二時岐阜大学着。

大学で飼育しているやぎはシバヤギという。ヤクシマヤギと同じように五島列島、長崎原産の小型やぎで大変参考になる。

まず、やぎのえさについて聞く。干し草、ベレット、ふすま、塩、カルシウムなど、一日に七五〇グラムほど与える。妊娠百日を過ぎたところから三割ほど増やしてやる。乳はなれをした子やぎも同じえさでよい。

やぎの特長

やぎは動作が敏捷で、跳躍力があるから、いじめると柵を飛び越えて逃げることもある。オスは反抗するものもある。

メスは生後七か月くらいになれば妊娠する。その時期になると行動が落ち着かなくなって、尾を立ててふる。その期間は約

二十日ほど。妊娠期間は二四八±三日で、一度に一、二頭を産む。まれに三頭を産むことがあり、その場合、母親は二頭のめんどろしかみない。分娩(子を産むこと)は朝か昼に多く、ふつうは人間が手助けする必要はない。

#### 病気の診断

南動物病院で撮ってもらったレントゲン写真を見てもらいました。

「両足の関節の部分が外れています。このような例は非常にめずらしく、手術が必要かもしれない。」

と言われ、たいへんなことになったなあと、不安になってきました。しかし、はつきりしたことが分かって、はるばる遠くまで来たかがありました。



#### ●十二月 七日(金) だいたいじょうぶか花子?

花子の足が、心配で心配でどうしてよいか分からない。以前、やぎのメリーでお世話になった岡崎市農務課の狩野先生に連絡をしました。

先生は忙しいにもかかわらず、さっそく来て下さいました。牧場に案内するとすぐに花子を見て、前足を何とか正常にもどそうと手をつくして下さいましたが、やはり簡単には治りません。

六年生の松田君が心配してのぞきこむ。教頭先生や大井先生もみえ、ビデオにも記録してくれました。

オスの太郎は、花子をみんながいじめているかと思っただろう。ずいぶん興奮して、まわりの人につっかかってくる。それもいつも以上にするどい目つきをして。いつも外からみていると、えさを食べる時は、太郎が花子がいじめているようにみえ

るのに、いざとなると花子をかばっている。さすが。

花子の足の様子を診察する市役所の狩野先生

次の日の午後一時半ごろ、ふたたび狩野先生がみえて、「若い先生方と実際にやぎをみて、病気を判断したい。」と、花子連れていきました。

予定から三時間ほどおくれて、花子もどって来ました。まさか手術をして帰ってくるとは思っていませんでした。ほうたいで左足をぐるぐる巻きにされた花子を見て、胸にこみ上げてくるものがありました。狩野先生はほかの獣医さんを頼んで、三時間を越す大手術をして下さったのです。

南動物病院の院長先生もたびたび心配して、牧場をのぞいてくださるし、いやな事件がいろいろ起こっている毎日の中でこんなにも温かい心を感じたことは、最近の私にはありません。



手術後、二十四時間はえさを与えないようにと言われたので、今日は自宅に連れていくことにしました。途中で、麻酔が切れてきたのか、車の中でずいぶん鳴きました。

夜おそくなって、かなり落ち着いてきましたが、ほうたいが取れるといけないうので時々のをいてやりました。花子はダンボール箱の中でじっと痛みに耐えています。



●十二月十四日(金) 飼育係、集まれ!

昼放課に飼育係が集まりました。冬休みの当番を決め、二学期の感想を話しあいました。

六の四鈴木恵美子・太郎のハリケンミキサーがいたかったけれど、太郎や花子とよく遊べたので、おもしろかった。

五の四福井 己容・初めて飼育係にはいって、太郎と花子の散歩ができてよかったし、かわいいところも見れてよかった。太郎と花子がだんだん太ってきたし、太郎の角がずいぶんのびた。

四の五鈴沖 裕美・花子はけがをしていますが、とても食欲があります。太郎も元気いっぱい、花子のところへ来てウンメー、ウンメーと話し合っているみたいです。あとは、足がよくなって、またいっしょに散歩をしたいと思います。

やぎのけがと、チャボのひなが台風で死んでしまったことが、いやでした。

●十二月二十日(木) えっ! どうして太郎が・・!

「太郎が死んじゃいそう。」

という、村上君の報告。死ぬということばは、ただごとではない。いつもはだいたい冷静にうけとめるのに、今日は違いました。すぐに「ふれあい牧場」へ飛んでいきました。小屋の中には三人の飼育係が様子を見守っています。太郎は南のかべの前で、見るもむざんなかっこうで倒れていました。首は直角以上に左に曲がり、だ液のようなものを出してぐったりしています。

た。体をまっすぐにしてやろうと思っても、うまくいきません。これはまずい。助からんかもしれない思いながらも、市農務課の狩野先生に連絡しました。

心配で、仕事もうわの空の私。しかし、太郎に何かしてやろうと思っても何もできないことがない。

「だいじょうぶか、がんばれよ太郎。」

とはげましてやるが、なにせ苦しうにグエー、グエーと鳴くだけ。いらいらしながら先生を待ちました。何と長い時間なのか。

十時半過ぎに狩野先生がみえました。すぐに、牧場へ案内しました。

「やっ、これは思っていたよりひどい。チアノーゼ反応が出ているぞ。」

太郎の口の中を見て、顔をゆがめて言われました。先生もびっくりしたらしい。さすがは専門の先生です。てきばきと次の行動を決めていく。薬の量を判断して、点滴と注射を行なった。少しでも可能性があるなら、助かってほしいといのりながら、太郎の体を支えて見守りました。治療が終わって、体温が下がらないようにダンボール箱に入れて、日が当たるようにと、外に出してやるました。

十二時半、ついに太郎が動かなくなりました。多くの子どもたちに見送られながら、静かに息をひきとりました。頭から腹にかけて、そっとさわってみるとぬくもりが消えていました。生まれてからまだ十一か月の短い命であった。しかし、あまりにも急な太郎の死でありました。それを知った子どもたちが小屋のまわりにどんどん集まってきました。

その後、

「先生、太郎って死んじゃったの。」

という問いかけを何度となく受けました。心配そうな子どもの顔つきに、太郎の果たした仕事の大きさが感じられました。

太郎がはいった箱の前には、水や花がそっと置かれました。みかんが二つと線香も置かれました。家に帰って花を持ってきた子もいました。これこそ、教育の原点ではないか？小さな命を大切に、太郎と子どもの心がふれあっているのです。

●十二月二十一日(金) いつまでも心に残る太郎

九時半、佐野先生と岡崎市のやすらぎ公園に太郎を運びました。

灰になって、天国に上っていきました。

五年生の志賀、成瀬さん、拓郎君たちがお墓のそうじをして、花も持って来てくれました。こういう心の優しさが、自然に出ることが、すばらしい。ありがとう。太郎は空の上でほえんでいるよ。

朝一番で、花といっしょにとどけてくれた五年生の鈴木拓郎君の手紙です。

太郎が死んで

五年三組 鈴木 拓郎

ふりかえってみれば、太郎と花子が来た日は、飼育係が全員でむかえた。太郎と花子の首には、クローバーのネックレスがかけてあり、みんなにかこまれて、「ふれあい牧場」へとやって来た。その時にはまだ角が小さかった。その日の夕方太郎はさくを飛び越えて大谷公園まで逃げたが、長坂先生たちがさがした。やっこの思いでつかまえたそうだ。

初めは体も小さく、小屋のかたすみでおびえていた。そして月日がたち、だいぶ成長して角が十六cmぐらいになって、ハリケンミキサーをやりはじめた。太郎は人間をこわがっていた。ぼくはその気持ちを

分かってあげれなかった。今思うと、もうひとつ太郎のハリケンミキサーをくraitたい。

太郎の最後は、十二月二十日十二時三十分。目をあいたまま、「ふれあい牧場」のダンボールの中でねむった。

「起きてよ太郎！みんなで遊ぼう！」

太郎がすうっと死んだとき、みんなの目は真剣だった。でも一番悲しいのは、長坂先生だと思う。太郎が死んでもからもうすぐ仕事だなんて。なくひまもなく、太郎と花子のめんどうはみんなしていた。ありがとう。先生の目には、なみだがいっぱいっばいっばいたまっていた。

太郎もメリーのところへいくのかな。天国で元気にすごしてね。

かわいい太郎、強い太郎、みんなの太郎、いたずら太郎。

「さよなら太郎」

花子は太郎の分までがんばれよ。死んだらおこるぞ。元気で太郎。

この手紙の最後、『元気で太郎』のところをを読みながら、私の目には、またまた涙がたまってきました。でも、太郎は言っていたよ。

「上地小で過ごした、一年間はしあわせだった。ありがとう。」

って。太郎のいない「ふれあい牧場」のさびしさを感じた子が、たくさんいると思います。どれだけ太郎たちのおかげで心がなごんだことでしょう。

●十二月十三日(日) 花子の包帯をほどく

午後三時、当番の三年一組の齊藤貴吉君といっしょに、花子のほうたいをほどいてやりました。左足はまだのばせない。予定では一週間ほどかかるようです。

反対の右足は、この三週間でかなり強くなってきました。できることなら、手術をしないでおきたい。

●十二月二十六日(水) 花子の足、順調な回復

小屋の中をのぞくと、たいていいつも白いにわとりが、花子の上に乗っています。すっかりなかよしになりました。あとから仲間になったにわとりだけど、ほかのチャボにいじめられなくてよかったです。日一日と、花子の足が動くようになってきました。今まで、足が地上につかなかったが、今日はだいぶ下につくようになった。もう少しだなあ。花子よ、がんばれ。

●十二月二十九日(土) 太郎がいないとさびしいんだね

冬休みになっても、子どもを連れて人が「ふれあい牧場」をたずねてくれます。

お母さん 「この間、太郎が死んだんだってね。」

子ども 「花子もけをしちゃったんだよ。」

お母さん 「かわいそうだね。ほんとに。」

太郎のいない牧場は、やけに静かです。花子の声も、いちだんとさびしく聞こえます。

「花子の食欲がでてきて、ずいぶんよく食べるようになった。チャボとも仲がよくなった。だけど、花子が一人でさびしう。」  
う。」「当番のメモより

●一月一日(火) 新年おめでとうございませう

朝十時、くもり時々雨。気温はいつもの年よりも高い。

「おおい、明けましておめでとう。」

「うんめえ。」

相変わらず、花子はいつもと同じ返事だね。でも、元気はよさそうです。チャボは、えさをめがけて一目散に走りよって来ました。左右に体をふりながら、チャボが走るのを見ていると、ユーモラスで、つい笑ってしまふ。

今年もよろしくね。

●一月十三日(日) ふれあい牧場の夢

十二月の太郎の死から一か月近くが過ぎました。地球上では大きな戦争が起こり、毎日多くの人々がをしたり、死亡しています。

今日は、花子一才の誕生日です。すばらしい状態で迎えれば良かったが、残念ながら何でも順調とはいかないものです。しかし、足のけがはみるみるよくなり、手術の跡をのぞけば、もとどおりに近づきました。食欲もおうせいで、飼育係の村上君を中心に、夕方には校内の散歩にでかけ、急な坂道も平気で登るようになりました。

花子の元気が出てきたことを、子供たちはみんな喜んでいます。

今、十周年を記念して、「ふれあい牧場」の手直しが計画されつつあります。そんなわけで、これから先は太郎に代わるすてきなオスを迎えること。そして、花子がかわいい子やギを産むことが待たれます。子どもたちが、小動物を世話する中で、大きな愛を育んでほしいと思います。